

騒音・振動・悪臭

目次

表 1	騒音に係る環境基準	(11)
表 2	愛知県名古屋飛行場及び岐阜飛行場の航空機騒音に係る環境基準	(12)
表 3	中部国際空港の航空機騒音に係る環境基準	(12)
表 4	新幹線鉄道騒音に係る環境基準	(12)
表 5	騒音規制法に基づく特定工場等及び特定施設の状況	(13)
表 6	振動規制法に基づく特定工場等及び特定施設の状況	(13)
表 7	条例に基づく騒音・振動発生施設を設置している工場等の状況	(13)
図 1	自動車騒音規制の経緯（加速走行騒音）	(14)
図 2	自動車騒音規制の経緯（定常走行騒音・近接排気騒音）	(15)
表 8	悪臭防止法による規制地域及び規制基準	(16)
表 9	県民の生活環境の保全等に関する条例に基づく悪臭関係工場等 の届出状況（平成 22 年度）	(17)

表 1 騒音に係る環境基準

地域の区分及び類型	道路に面する地域以外の地域			道路に面する地域		特例
	AA	A	B	C	A 地域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する地域及び C 地域のうち車線を有する道路に面する地域	
基準値	50デシベル以下	55デシベル以下	55デシベル以下	60デシベル以下	60デシベル以下	70デシベル以下 *45デシベル以下
該当地域	40デシベル以下	45デシベル以下	45デシベル以下	50デシベル以下	55デシベル以下	65デシベル以下 60デシベル以下
達成期間	該当なし	第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域及び第2種中高層住居専用地域	第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域及び都市計画区域で用途地域の定められていない地域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域	季節の道路に面する地域については、環境基準の施行後10年以内を目途として達成され、又は維持されるよう努めるものとする。ただし、幹線交通を担う道路に面する地域であって、道路交通量が多くその達成が著しく困難な地域については、10年を超える期間で可及的速やかに達成されるよう努めるものとする。道路に面する地域以外の土地が、環境基準が施行された日以降計画された道路の設置によって新たに道路に面することとなった場合にあっては上記にかかわらず当該道路の供用後直ちに達成され又は維持されるよう努めるものとする。
備考	<p>1 地域の類型 AA：療養施設、社会福祉施設等が集まって設置される地域など特に静穏を要する地域 A：専ら住居の用に供される地域 B：主として住居の用に供される地域 C：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域</p> <p>2 時間の区分 昼間：午前6時から午後10時まで 夜間：午後10時から午前6時まで</p> <p>3 *は屋内へ透過する騒音に係る基準（個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、この基準による。）</p> <p>4 この環境基準は、航空機騒音、鉄道騒音及び建設作業騒音には適用しない。</p> <p>5 「幹線交通を担う道路」とは、次に掲げる道路をいう。 ・高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道（市町村道は4車線以上の区間） ・一般自動車道であって都市計画法施行規則第7条第1項第1号に定める自動車専用道路</p>					

表2 愛知県名古屋飛行場及び岐阜飛行場の航空機騒音に係る環境基準

地域の類型	I	II
基準値	70WECPNL以下	75WECPNL以下
該当地域	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域及び都市計画区域で用途地域の定められていない地域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域
達成期間	<p>1 愛知県名古屋飛行場（愛知県西春日井郡豊山町豊場）の位置を示す標点（北緯35度15分06秒、東経136度55分39秒）から滑走路延長方向に延ばした直線（以下「名古屋中心線」という。）と直角方向に東方5キロメートル、西方4キロメートルの点を通る名古屋中心線との平行線、標点から名古屋中心線上に南方へ18キロメートルの点を通る名古屋中心線との垂線及び愛知、岐阜両県の県境によって囲まれる地域。ただし、愛知県名古屋飛行場の敷地並びに河川区域及び工業専用地域を除く。</p> <p>2 岐阜飛行場（岐阜県各務原市郡加町）の位置を示す標点（北緯35度23分28秒、東経136度52分21秒）から滑走路延長方向に延ばした直線（以下「岐阜中心線」という。）と直角方向に南方6キロメートル、北方1キロメートルの点を通る岐阜中心線との平行線、標点から岐阜中心線上に東方へ13キロメートルの点を通る岐阜中心線との垂線及び名古屋中心線と直角方向に東方へ5キロメートルの点を通る名古屋中心線との平行線によって囲まれる愛知県内の地域。ただし、河川区域及び工業専用地域を除く。</p>	
達成期間	直ちに	

表4 新幹線鉄道騒音に係る環境基準

地域の類型	I	II
基準値	70デシベル以下	75デシベル以下
該当地域	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域及び都市計画区域で用途地域の定められていない地域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域
達成期間	80デシベル以上の区域	3年以内
	a	
	b	7年以内
	c	10年以内
達成期間	70デシベルを超え80デシベル未満の区域	10年以内
達成期間	70デシベルを超え75デシベル以下の区域	10年以内
備考	<p>1 本環境基準は午前6時から午後12時までの間の新幹線鉄道騒音に適用する。</p> <p>2 Iをあてはめる地域は主として住居の用に供される地域とし、IIをあてはめる地域は商業の用に供される地域等I以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域とする。</p> <p>3 達成目標期間の欄のbの区域中Iとは地域の類型Iに該当する地域が連続する沿線地域内の区域をいい、ロとはIを除く区域をいう。</p> <p>4 達成目標期間の欄に掲げる期間は、本環境基準が定められた日（昭和新幹線鉄道騒音の防止施策を総合的に講じても所定の達成目標期間で環境基準を達成することが困難と考えられる区域においては、家屋の防音工事等を行うことにより環境基準が達成された場合と同等の屋内環境が保持されるようにするものである。</p> <p>6 環境基準の達成努力にもかかわらず、所定の達成目標期間内にその達成ができなかった区域が生じた場合においても、可及的速やかに環境基準が達成されるよう努めるものとする。</p>	

(注) I 達成目標期間の欄は、既設新幹線鉄道（東京・博多間の区間の新幹線鉄道）に係る内容に限った。

2 該当地域の欄における鉄けた橋りょう及び坂の坂トンネルに係る該当地域は次のとおりである。鉄けた橋りょう、木曾川鉄橋については、左右両側にそれぞれ700mまでの地域及び橋りょうの橋げたの先端部と線路の中心線の交点を中心に、橋りょうの反対側に半径700mの円内の地域、その他のものについては左右両側にそれぞれ橋りょうの反対側に半径600mの円内の地域とし、トンネルのうち坂の坂トンネルに限りトンネルの出入口と線路の中心線の交点を中心としてそれぞれトンネル側に半径400mの円内の地域

表3 中部国際空港の航空機騒音に係る環境基準

地域の類型	I
基準値	70WECPNL以下
該当地域	常滑市、弥富市、海部郡飛島村並びに知多郡南知多町及び美浜町の区域。ただし、常滑市セントレア一丁目、セントレア二丁目、セントレア三丁目、セントレア四丁目及びセントレア五丁目の区域、河川区域並びに工業専用地域を除く。
達成期間	直ちに

表5 騒音規制法に基づく特定工場等及び特定施設の状況

施設の種別	工場等数	施設数
金属加工機械	4,333	31,316
空気圧縮機等	7,294	51,807
土石用破砕機等	550	3,024
織機	6,143	98,815
建設用資材製造機械	194	274
穀物用製粉機	43	368
木材加工機械	1,336	4,531
抄紙機	11	37
印刷機械	1,015	4,475
合成樹脂用射出成形機	791	10,158
鋳造型機	214	1,631
計	21,924	206,436

(注)1 平成23年3月末現在

2 2以上の異なる施設を設置する特定工場等の数は、主要な施設の欄に計上してある。
(資料) 環境部調べ

表6 振動規制法に基づく特定工場等及び特定施設の状況

施設の種別	工場等数	施設数
金属加工機械	3,922	34,243
圧縮機	4,358	22,043
土石用破砕機等	492	2,764
織機	5,907	78,052
コンクリートブロックマシン等	34	108
木材加工機械	105	213
印刷機械	651	2,730
ゴム練用又は合成樹脂練用ロール機	48	277
合成樹脂用射出成形機	743	10,167
鋳造型機	148	1,284
計	16,408	151,881

(注)1 平成23年3月末現在

2 2以上の異なる施設を設置する特定工場等の数は、主要な施設の欄に計上してある。
(資料) 環境部調べ

表7 条例に基づく騒音・振動発生施設を設置している工場等の状況

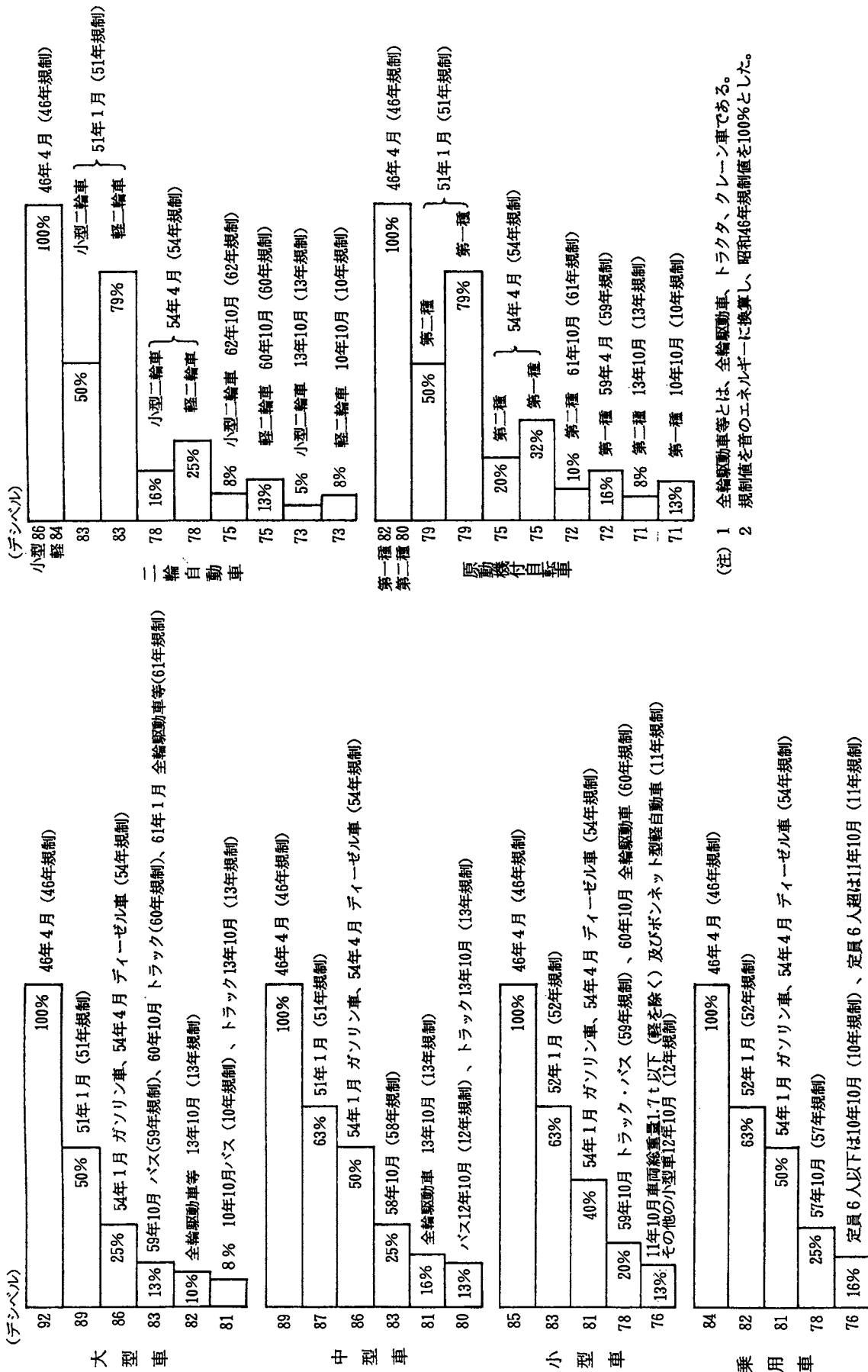
騒音関係工場等数	振動関係工場等数
15,009	17,412

(注)1 平成23年3月末現在

(注)2 名古屋分を含む。

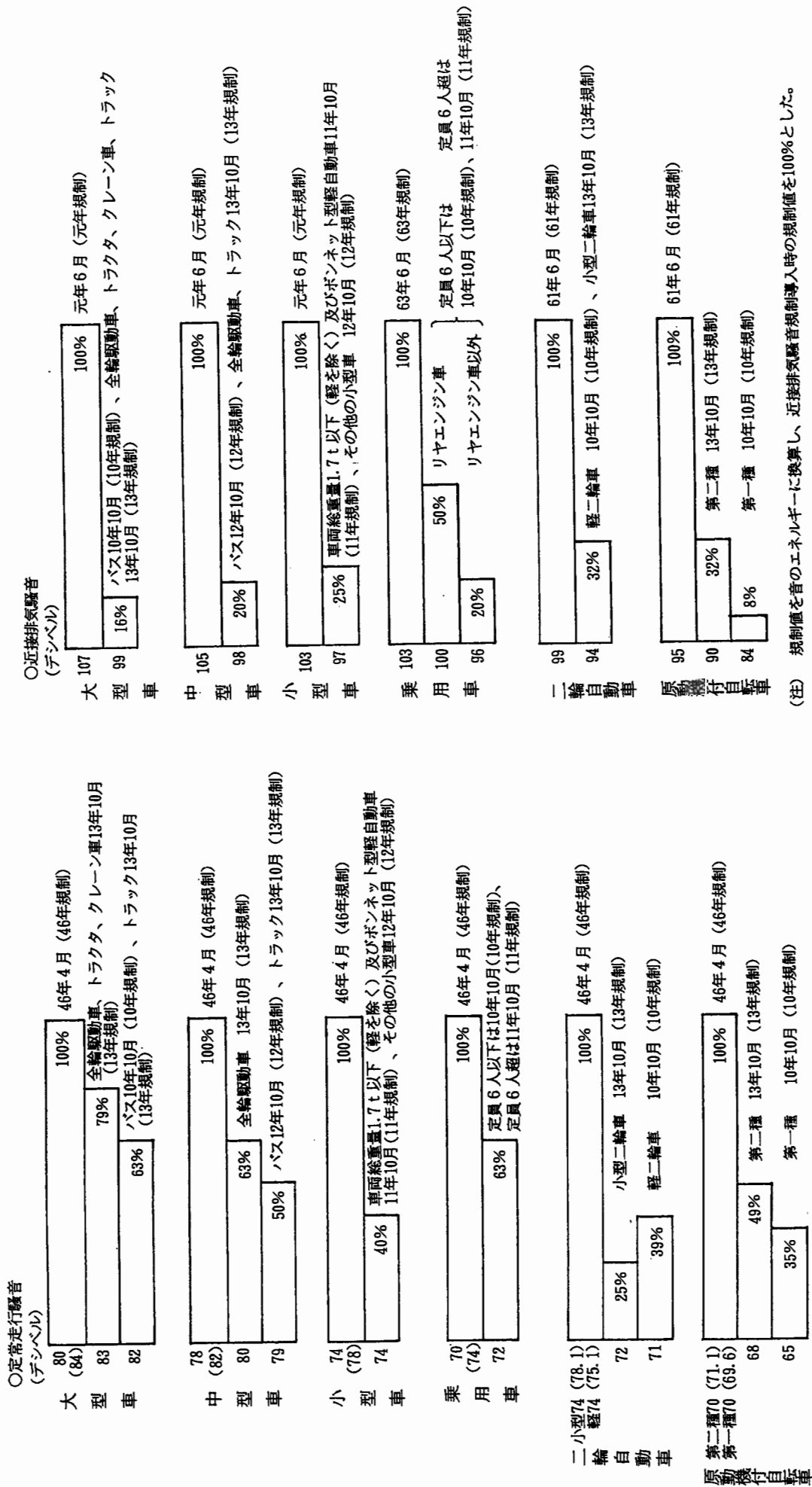
(資料) 環境部、名古屋市調べ

図1 自動車騒音規制の経緯 (加速走行騒音)



(注) 1 全輪駆動車等とは、全輪駆動車、トラック、クレーン車である。
2 規制値を音のエネルギーに換算し、昭和46年規制値を100%とした。

図2 自動車騒音規制の経緯 (定常走行騒音・近接排気騒音)



(注) 1 規制値を音のエネルギーに換算し、昭和46年規制値を100%とした。
 2 46年規制の騒音規制値の()内の数値は、測定速度及び測定位置の変更による現行規制値の換算値

表 8 悪臭防止法による規制地域及び規制基準

1 特定悪臭物質の濃度又は流量に係る規制地域及び規制基準

(1) 規制地域

大山市、江南市、小牧市、稲沢市、岩倉市及びあま市（旧甚目寺町） 丹羽郡大口町、同郡扶桑町及び海部郡大治町

(2) 規制基準

ア 敷地境界における規制基準（法第4条第1項第1号）

(単位：ppm)

悪臭物質の種類 規制地域の区分	規制基準											
	アンモニア	メチルメルカプタン	硫化水素	硫化メチル	二硫化メチル	トリメチルアミン	アセトアルデヒド	プロピオンアルデヒド	ノルマルブチルアルデヒド	イソブチルアルデヒド	ノルマルバレールアルデヒド	
第1種地域	1	0.002	0.02	0.01	0.009	0.005	0.05	0.05	0.009	0.02	0.009	
第2種地域	2	0.004	0.06	0.05	0.03	0.02	0.1	0.1	0.03	0.07	0.02	
第3種地域	5	0.01	0.2	0.2	0.1	0.07	0.5	0.5	0.08	0.2	0.05	

悪臭物質の種類 規制地域の区分	規制基準											
	イソバレールアルデヒド	イソブタノール	酢酸エチル	メチルイソブチルケトン	トルエン	スチレン	キシレン	プロピオン酸	ノルマル酪酸	ノルマル吉草酸	イソ吉草酸	
第1種地域	0.003	0.9	3	1	10	0.4	1	0.03	0.001	0.0009	0.001	
第2種地域	0.006	4	7	3	30	0.8	2	0.07	0.002	0.002	0.004	
第3種地域	0.01	20	20	6	60	2	5	0.2	0.006	0.004	0.01	

(注) 規制地域の区分は、市町村ごとに定められている。

イ 気体排出口における規制基準（法第4条第1項第2号）

特定悪臭物質の種類	アンモニア、硫化水素、トリメチルアミン、プロピオンアルデヒド、ノルマルブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド、ノルマルバレールアルデヒド、イソバレールアルデヒド、イソブタノール、酢酸エチル、メチルイソブチルケトン、トルエン、キシレン
規制基準	特定悪臭物質の種類ごとに、1（2）アの表の規制地域の区分に従い、それぞれの欄に掲げる規制基準を基礎として、悪臭防止法施行規則第3条に定める方法により算出した値

ウ 排水中における規制基準（法第4条第1項第3号）

(単位：mg/l)

特定悪臭物質の種類	規制地域の区分	排水量		
		$Q \leq 10^{-3} \text{m}^3/\text{s}$	$10^{-3} \text{m}^3/\text{s} < Q \leq 10^{-1} \text{m}^3/\text{s}$	$10^{-1} \text{m}^3/\text{s} < Q$
メチルメルカプタン	第1種地域	0.03	0.007	0.002
	第2種地域	0.06	0.01	0.003
	第3種地域	0.2	0.03	0.007
硫化水素	第1種地域	0.1	0.02	0.005
	第2種地域	0.3	0.07	0.02
	第3種地域	1	0.2	0.05
硫化メチル	第1種地域	0.3	0.07	0.01
	第2種地域	2	0.3	0.07
	第3種地域	6	1	0.3
二硫化メチル	第1種地域	0.6	0.1	0.03
	第2種地域	2	0.4	0.09
	第3種地域	6	1	0.3

(注) Qは、事業場の敷地外に排出される排水量を表す。

2 臭気指数又は臭気排出強度に係る規制地域及び規制基準

(1) 規制地域

瀬戸市、半田市、豊川市、津島市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、蒲郡市、新城市、常滑市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、高浜市、豊明市、日進市、田原市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、みよし市及びあま市（旧七宝町及び旧美和町）
愛知郡東郷町、同郡長久手町、西春日井郡豊山町、海部郡蟹江町、同郡飛島村、知多郡阿久比町、同郡東浦町、同郡南知多町、同郡美浜町、同郡武豊町、額田郡幸田町、北設楽郡設楽町、同郡東栄町及び同郡豊根村

(2) 規制基準

ア 敷地境界線における規制基準（法第4条第2項第1号）

規制地域の区分	第1種地域	第2種地域	第3種地域
臭気指数	12	15	18

イ 気体排出口における規制基準（法第4条第2項第2号）

2（2）アの表の規制地域の区分に従い、それぞれの欄に掲げる規制基準を基礎として、悪臭防止法施行規則第6条の2に定める方法により算出した値

ウ 排出水中における規制基準（法第4条第2項第3号）

規制地域の区分	第1種地域	第2種地域	第3種地域
臭気指数	28	31	34

表9 県民の生活環境の保全等に関する条例に基づく悪臭関係工場等の届出状況（平成22年度）

業 種		届出件数
1 畜産農業	イ 豚房施設（豚房の総面積が50m ² 以上）	232
	ロ 牛房施設（牛房の総面積が200m ² 以上）	433
	ハ 鶏3,000羽以上飼育	187
	ニ うずら20,000羽以上飼育	20
	小計	872
2 乾燥施設を有する飼料又は有機質肥料の製造業		39
3 コーンスターチ製造業		4
4 紡糸施設を有するレーヨン製造業		0
5 クラフトパルプ製造業		1
6 製膜施設を有するセロファン製造業		0
7 加硫施設を有するゴム製品製造業		49
8 カプロラクタムの製造施設を有する石油化学工業		1
9 石油精製業		3
10 溶鋳炉を有する製鉄業		2
11 シェルモールド法による鋳物製造業		49
12 化製場		9
13 廃棄物処理法により届出されたし尿処理場（浄化槽を除く。）		38
14 廃棄物処理法により届出されたごみ処理場		92
15 下水道終末処理場		52
計		1,211

(注) 名古屋市分を含む。

(資料) 環境部、名古屋市調べ